

新刊紹介

雪崩ハンドブック

ビッド・マックラング, ピーター・シアラー著
 特定非営利活動法人 日本雪崩ネットワーク訳
 東京新聞出版局
 2007 年 12 月発行, 342 頁, 2476 円+税
 ISBN978-4-8083-0884-1



原書である「AVALANCHE HANDBOOK」は 2006 年 2 月に出されている。これを日本雪崩ネットワークが訳し、東京新聞出版局から出版された。「AVALANCHE HANDBOOK」の初版は 1976 年、第 2 版は 1993 年で今回が第 3 版となる。これらは積雪や雪崩の基礎から雪崩対策の応用まで雪崩管理者やスキーヤーのハンドブックとして利用されてきた。

今回の改訂では序文にもあるように多くの新しい知見が取り入れられた。第 6 章「雪崩予測」では予測に関して 7 つの要素（定義、目的、人的要因と認知、推論のプロセス、情報の種類とその認知への関係、空間と時間のスケール、意思決定）に区分される考え方を取り入れた。雪崩が発生するかしないかの不確実性について強調し、予測の目的は 3 つの情報源（不安定性の時間的・空間的多様性、雪と気象の漸次的変化、人的要因）から不確実性を最小限にすることだとしている。また、第 8 章では、バックカントリートラベラーの意思決定プロセスを提起している。これらの背景には、人間の行動自体が雪崩を引き起こしていることがあり、実際にバックカントリーで行動する読者を意識しているようだ。

新しい科学的知見も取り入れている。たとえば第 4 章の雪崩発生における剪断破壊靱（じん）性（Shear Fracture Toughness）はこれまでの積雪安定度（Stability Index）とは異なる概念で、物質の粘り強さを表す指標である。ただしその求め方が複雑であるためか、実際の利用には他の参考文献を参照する必要があるようだ。

「AVALANCHE HANDBOOK」の日本語訳は、今回初めて出版された。訳者は山口 悟氏、根本征樹氏（防災科研）、伊藤陽一氏（土木研究所）、池田慎二氏、勝島隆史氏（(株)アルゴス）、松本省二氏、五月女行徳氏（NZ 山岳ガイド協会所属スキーガイド）、伊藤義景氏（東京大学）らと NPO 法人雪崩ネットワークの方々である。日本語版では原書では見られない工夫もされている。たとえば、各章のはじめに色扉をつけて必要なところがすぐに見つかるようにしてある。これにより原書にある各章ごとの格言が浮かび上がった。たとえば、第 2 章 山岳における雪気候と気象要素
 仁者は山を楽しみ、智者は水を楽しむ — 孔子
 (The virtuous find delight in mountains, the wise in rivers)

第 8 章 バックカントリーでの雪崩予測と意思決定の ABC

ホールドすべきときを知り、降りるときを知らなきゃ。 — ケニー・ロジャース「ザ・ギャングラー」より

(You've got to know when to hold'em, know when to fold'em)

著者と日本語訳者らの新しい取り組みへの挑戦に敬意を表したい。写真やイラストもわかりやすい。基礎から応用へのプロセスや科学的なものの思考について、考え知ることの重要性を再認識させられた。雪氷関係者には是非とも一読をお願いしたい書籍である。

(防災科研 雪氷防災研究センター 上石 勲)

(2008 年 7 月 18 日受付)